



# 国際ロータリー第2800地区 1959年6月9日創立 鶴岡ロータリークラブ

例会場 東京第一ホテル鶴岡(鶴岡市錦町2-10) 例会日 毎週火曜日(12:30~13:30)

平成25年10月22日(火) 第2650回 例会 (本年度第14回)

10月29日(火)	親睦夜例会 黒豚家族例会
11月5日(火)	ゲストスピーチ 米山獎学生 馬可君
11月9・10日(火)	地区大会
11月12日(火)	振替休会

Eメール◎tsuruoka08@rid2800.jp ホームページ◎http://www.tsuruokarc.org/

## 会長挨拶

嶺岸禮三君

黙とうして頂きありがとうございました。9月21日に中江亮さんが亡くなつたと娘さんから事務局に連絡がありました。富樫松夫さんから、怪我をして入院中だけ、鶴岡南ロータリークラブの創立20周年には参加したいとリハビリに励んでいるという情報から、12月にはお目にかかれると思っていただけに残念です。

中江さんは大正10年7月、台湾のお生まれで、今年92歳。昭和44年12月、同じ台湾出身の張先生の推薦でクラブに入会し、昭和57年-58年度に第24代会長を務められ、その後もロータリーの理論派として活躍され多くのロータリアンに影響を与えた方でした。20年前には鶴岡南ロータリークラブの特別代表としてクラブの創立に貢献されました。

中江さんが退会したのは、平成15年6月30日ですが、退会される前から東京に移られていたので、もう十数年お目にかかっていませんが、中江さんには公私ともに大変お世話になりました。入会する前から声をかけて下さり、入会後もいろいろ指導してもらいました。中江さんが経営していた中国飯店は鶴岡ロータリーにとっては致道館のようなもので、新入会員の多くがそこで中江さんからロータリーの事や会員の話を時にユーモアを交えて聞かせてもらったものです。

ここに中江さんのご逝去を悼み、謹んでご冥福をお祈り致します。

## 幹事報告

小林健郎君

### 鶴岡南RC

○鶴岡南ロータリークラブ創立20周年記念式典のご案内

日時:12月14日(土) 登録開始:13:00

記念式典:14:00~ 記念講演:15:15~

祝賀会:16:35~

会員数	40名
出席	26名
出席率	70.27%
前々回確定出席率	89.18%

■ R I 会長 ロンD・バートン	■ 地区ガバナー 新関彌一郎
■ 会長/嶺岸禮三 ■ 副会長/越智茂昭 ■ 幹事/小林健郎 ■ 会長エレクト/丸山隆志	
■ 会報委員会/嶺岸禮三・本間 厚・石田 雄・丸山隆志	

事務局:鶴岡市馬場町11-63 鶴岡産業会館3階 TEL(0235)28-3375 FAX(0235)28-3376



鶴岡ロータリークラブ  
ホームページ

した。これもただ黙っていても来てくれません。一年くらい手紙でお願いしたり、お会いした時もお願いしましたが、うんと言わない。だけど行かないとも言わない。わずかな可能性は残っていました。いろいろ考えて最後の決め手に死なないクラゲ(赤クラゲ)をデザインしたネクタイを敬老の日に先生に送りました。手紙には長生きして好きな研究を続けてくれ、ネクタイは安いものじゃない、絹の三つがそろっている鶴岡で技術を結集して作ったんだ、というようなことを書きました。それに感動して翌年の春行くと言ってくれた。そしてそのお蔭で6万人の増客がありました。一人千円は使いますから6,000万円を先生からもらった、あとずっと横ばいですから毎年6,000万円頂いている感じです。

発光中のオワンクラゲは緑色です。緑色のところを先生が取り出してから50年後ノーベル賞に輝いています。先生が受賞後初めて講演会を東京でされた時、私も招待されました。私ごときが行ってどうなるのかと何度もお断りしましたが、先生の狙いは学者の話は面白くない、つまらないからサカナとして一人誰か来て欲しいということのようなので行きました。1,500人が座っている有楽町の国際フォーラムの大ホールです。大先生の話が終わり中央に研究成果の絵が映し出されていましたが、会場がシーンと静かです。緊張しているのか、話がわからなかったのか。そこで私はクラゲ入り饅頭と羊羹の話をしました。そしたら会場が沸き上がった。「本当はクラゲを入れないほうが美味しいんです」と言ったら更にわー!となりました。加茂水族館クラゲで頑張っていましたが、4年目に入る辺りで日本一の展示をしました。しかし入場者が減りました。私は借金して展示しましたからそれでは済まない訳です。何とかしなければならないと考え思いついたのがスナイロクラゲです。丸い青いクラゲでそれを食べる会を開きました。みんな信じない。でもやりました。やたらすごい反響です。やるかやらないか、こんなバカくさいことをやれるようになって初めてやることがうまくいくようになりました。ユーモアがないと駄目だと痛感しました。クラゲを食べる会をやる中からこういうアイデアが出てきて製品化しました。この世で埋もれているものは山ほどあります。それは広く認知されていないからです。素晴らしいものを作るよりも認知してもらうほうがはるかに難しい。そういう意味ですごい力を持った商品です。ありえないことを実際やったわけです。みのもんたさんが取り上げてくれました。あの番組は30秒5,000万円かかるそうですから何億という宣伝効果がありました。そうして人の力を借りないで入館者を増やし、これを売って資金を得、展示を増やしていました。5年後には世界一の展示をして下村先生に結び付きました。10月にノーベル賞の発表があり、3月までですから約3万人入館者が増えました。3,000万もらったようなものだと話したらまた会場がわー!となりました。私が話し終わった時は大先生の話は別としてほかの先生方の話は

吹っ飛んでクラゲ饅頭と羊羹が残った、そんな感じでした。

鶴岡市に買い取られて3年間は年間20万人を超えていました。しかし周りに男鹿、新潟の水族館が立つとともに入館者数が落ちていきました。満光園の倒産でますます減っていました。112号線開通で山形から、バブル期、人面魚が話題になったころ東京からお客様が来て少し増えましたが、もう最後かと思った時がありました。いよいよホームページかと。そんな時突然幅3ミリの小さな生き物がサンゴの水槽から湧き出した。何だから分からなかったのですが、これがサカサクラゲでした。お客様が喜んでくれました。それでいろいろ捕まえて展示しました。クラゲの寿命は短いです。4ヶ月生きません。どうしても繁殖が必要でした。お金がない中工夫して取り組んだのが副館長です。お金がないから出来ないというのうそですね。また、ある提案をしてそれが素晴らしいといわれるの一般的なものです。本当にすごい提案、アイデアというのは理解されません。だから実行すればすごい反響があるわけです。人のアイデアを真似ても大したことにはなりません。クラゲを食べる会やクラゲレストラン、誰も信じなかった。でもやって売上が5倍になった。そうやって人の力を借りないで一步一歩這い上がってそして今の姿になりました。

日本中誰にも存在を知らざることが無かった小さな水族館が、次第に世界に知られるようになり、ドイツ、アメリカ、カナダ、香港、中国、韓国などと交流をするようになります。クラゲ展示の幅を広げています。

今は新水族館建設に向けて工事が急ピッチで進んでいます。世界に二つとないクラゲを展示する水族館にご期待ください、そして応援してください。

## 委員会報告

### ◆出席委員会

### ◎ゲスト

村上龍男氏(鶴岡市加茂水族館館長)

### ◎マイクされた方

青柳孝治・藤川享胤・樋渡美智子・佐藤孝子

塚原初男・丸山隆志・迎田 健

### スマイル

佐藤孝子君 村上さんスピーチありがとうございました。新水族館楽しみにしています。中江さんのご冥福をお祈りいたします。

西川富美子君 29日金峯山参道観察登山に12名の方から参加いただきありがとうございました。頂上からの眺めは素晴らしかったです。今後の整備にもご協力ください。

藤川享胤君 村上さんの素晴らしいスピーチに。

嶺岸禮三君 村上さん超多忙の中スピーチありがとうございました。